



イベントとおもてなし

新幹線記念イベントに行くはずが

先日、「はこだてグルメガーデン」(7月1日～8月31日)の会場をのぞいてみました。北海道新幹線開業記念イベントの一つであり、JRRグループによる「青森県・函館アステーションキャンペーン」にタイミングを合わせて行われたものです。

あいにく早く着きすぎたため、会場はまだ盛り上がる前。時間を置いてまた来よう、と函館駅前特設会場をあとに大門地区を散策しました。

そのとき立ち寄ったのが「もっさり」でした。もっさりとは立ち飲みのできる酒販店のことで、造船業全盛期には西部地区を中心にたくさん繁盛していたそうです。今も市内に何軒か残っていますが、私自身、入るのはこれが初めてでした。

酒販店ですからお酒は原価で安く、当然、つまみも種類がありました。

呑兵衛には嬉しい限りですが、そんなことよりも驚いたのは、客が入れ替わり立ち替わりの賑わいぶり、と客同士、和気藹々の雰囲気でした。

私も隣に居合わせた人と、「函館の朝イカ売りって、今も来るんですか。移住者ですけど、見たことがありますよ。せん」私の町には毎朝来ますよ。昔と違って軽トラで来ますけど」という話を皮切りに、イカ談義に花が咲きました。その人は、家は遠いけれど、ここにはよく来ると言っていました。

結局は、このもっさりで、大いに飲んで食べて話をして、胃袋も心もいっぱいになってしまったため、そのまま帰宅してしまいました。

観光客向けか、市民向けか

こっちにも少しくらいは行くべきだったか…。翌朝、グルメガーデンの案内誌を見ながら、後悔する「しきり」でした。

会場は、美食の街・函館をイメージしたという「はこだてテリア」と、道内各地から自慢の地元グルメが大集合という「北海道うまいもんサミット」という2つのゾーンで構成されています。移住後も函館べったりで、ほとんど道内を旅していませんので、とくに後者に惹かれました。

しかしその一方、函館好きが高じて市民になった私としては、このイベントで「函館らしさ」が味わえるか、という意味で少々疑問が残りました。むしろ、一年中当たり前に営業している、いつでも入れる「もっさり」の方が函館らしいわけですし、ここで普通の市民と話をすれば、よりいっそう函館の土地柄が感じられます。

決して「はこだてグルメガーデン」をけなしているわけではありません。函館に居ながらにして道内各地のグルメが体験できるのですから、市民にとっては、手軽で楽しいに違いありません。つまり、このようなイベントは、観光客や観光振興のためのイベントのように見えて、実は函館市民のためのイベントではないか、と思うのです。

「おもてなし」の心とは

旅行者として函館に来ていたころは、クリスマスファンタジーなどで、冬にも花火がよく上がることには驚いていました。それにも増して今年の冬は、新幹線歓迎ということもあり、たくさん花火が上がりました。

私も花火は好きですし、港まつりやクリスマスファンタジーは、花火なしではありえないと思うのですが、

函館観光の魅力度アップという点では、もうこれ以上、花火はいらないのではないかと、というのが正直なところです。

何かにつけ過ぎるとありがたみが薄れるというのがありますが、花火が嫌いな観光客はまずいない。それだけに花火が上がれば、誰も見ずにはいられない。すると、限られた函館の夜を、花火見物に取られてしまうということになります。

せっかく函館に足を運んでもらったのだから、よそでも見られる花火を見せるよりも、函館らしい夜をじっくりと味わってもらおう。その方が「おもてなし」の精神にかなうのではないかと思うのです。もちろん、「花火を見るので、滞在日数を増やそう」という観光客が増えるに越したことはありませんが。

★プロフィール★

おおにし	つよし
大西	剛さん

1959年生まれ、大阪出身。
2011年秋より函館に移住し、「新函館ライブラリ」を設立。「新函館写真紀行」「市電でめぐる函館100選」など函館本の出版に取り組む。新幹線開業に合わせ「来たくなったら自分で探そうー超不親切 移住者による函館ガイド」を緊急出版。